

群馬建協

青柳会長が5選

行動指針に制度変更反映

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は17日、2017年度定時総会を群馬建設会館（前橋市）で開いた。任期満了に伴う役員改選で青柳会長が5選した。

冒頭、青柳会長は「10年後を見据えた地域建設業のあり方」が国土交通省の建設産業政策会議で議論されている。人口減少社会を見据えた制度変更などを今年度の協会の行動指針に具体的に反映し、提言要望活用として発信していく」と述べた。写真。



17年度事業計画では、諸課題の解決に向けたアンケート、施工技術発表会、ICT（情報通信技術）についての講演会、災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」活用、高校生や大学生などを対

象としたインターンシップ、環境すみずみパトロール隊の活動継続、建設キャリアアップシステムについての情報収集・提供と必要な改善の要望などの活動を予定。18年には設立70周年を迎えることから、新建設会館の完成も念頭に置きながら記念事業の検討も進める。

建設業の発信基地

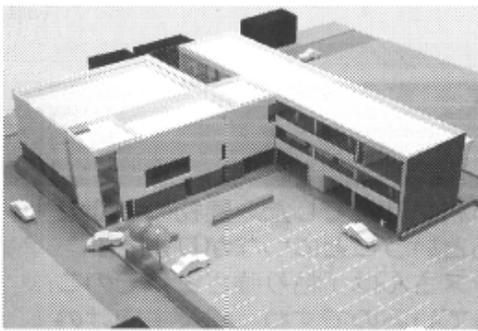
今夏に本体工事着工

群馬県建設事業協同組合（青柳剛理事長）と群馬県建設業協会（青柳剛会長）は、前橋市にある群馬建設会館を敷地内で建て替える。青柳会

長は17日、「建設業の発信基地にしたい」との考えを示した。基本・実施設計はプランツアソシエイツ・協同組合群馬県建築設計センターJVで進めている。解体工事、本体工事はそれぞれ一般競争入札で施工者を決める。解体は6月、本体は2017年夏に着工し、18年12月の全体完成を目指す。

コンセプトは「建設会館にふさわしい安全性・快適性の実現」「建築の価値を表現する技術・デザイン」「長年この地にあり続けた組織としての地域貢献」の3つを掲げた。

完成予想模型



規模はS造3階建て延べ2

936平方メートル。1階に同協会・同組合・建設業労働災害防止協会、前橋地区建設業協会の各オフィス、ギャラリー、将来のテナントスペース、2階に大会議室や会議室、3階に東日本建設業保証、建築士会、農村整備建設協会の各オフィスを設ける。285平方メートルの大会議室は2分割して使用できる。

重要度係数1・5の耐震性能を確保し、杭基礎を採用する。

既存のホール棟は6月から解体し、完了後、その跡地と駐車場部分に新会館を建設する。18年8月の完成後、既存の事務所棟を解体し、80台分の駐車場と外構を整備する。

建設地は現会館敷地（前橋市元総社町2-5-3）3823平方メートル。